Canon キヤノンITソリューションズ株式会社

ニュースリリース

2009年6月23日
キヤノンITソリューションズ株式会社

Webからの情報漏えい対策機能を大幅に強化した「WEBGUARDIAN」ならびに「GUARDIANWALL」の新バージョン 2009年7月7日から販売開始

キヤノンITソリューションズ株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：武井 尭）とNECソフト株式会社（本社：東京都江東区、代表取締役 執行役員社長：古道 義成）は、Webからの情報漏えいを防止するセキュリティ管理ソフト「WEBGUARDIAN」の新バージョン（Version 3.4）とメールからの情報漏えいを防止するセキュリティ管理ソフト「GUARDIANWALL」の新バージョン（Version 7.3）を2009年7月7日から販売開始します。

情報発信ツールとしてのWeb利用が進むに伴い、企業におけるセキュリティ上の脅威も増大・高度化しています。「WEBGUARDIAN」は、URLフィルタリングによるアクセス先制限機能に加え、送信データ（Webメール/メッセンジャー/掲示板/オンラインストレージなど）のコンテンツフィルタリング機能とアーカイブ機能も備えたWebセキュリティ管理ソフトです。Web利用の「見える化」を促進するとともに、内部統制の強化が実現できます。

今般販売を開始する「WEBGUARDIAN」の新バージョンでは、拡張子が偽装されたファイルをWebメールやオンラインストレージサイトへ送信できないようにするファイルタイプ判別機能や、個人情報の流出を抑止する個人情報検査機能を新たに搭載し、より高度なコンテンツフィルタリングが実施できます。また、LDAPサーバーとの連携によるプロキシー認証のほかに、「WEBGUARDIAN」独自のプロキシー認証機能を追加したため、DHCP環境や1台のPCを複数名で利用している環境でも、LDAPサーバー連携なしで本人認証が行えます。

このたびのバージョンアップに伴い、「WEBGUARDIAN」のライセンス体系を年間サブスクリプション方式に変更し、初年度費用を引き下げる価格改定や最小ユーザー数の引き下げを行います。また既存の一般企業さま向け「WEBGUARDIAN 一般向けライセンス」の他に、教育機関や官公庁・自治体を対象とする「WEBGUARDIAN アカデミック・ガバメント向けライセンス」をラインアップに追加します。

「GUARDIANWALL」は、電子メールのコンテンツフィルタリング機能とアーカイブ機能を備えたメールセキュリティ管理ソフトです。「GUARDIANWALL」の新バージョンは、管理操作画面の不具合修正などを行ったメンテナンスリリースで、主要機能はVersion 7.2から変更ありません。

販売目標は、販売開始から3年で1,000社への導入を見込んでいます。

■「WEBGUARDIAN」 新バージョンの主なポイント

- 送信データのコンテンツフィルタリング機能を強化（ファイルタイプ判別機能 / 個人情報検査機能）
- 独自プロキシー認証機能を追加
- Windows Live Hotmailの閲覧対応
- ライセンス価格体系を変更（年間サブスクリプション方式による初年度費用引き下げ / 最小ユーザー数引き下げ）

■販売情報

【WEBGUARDIAN】

ユーザー数	WEBGUARDIAN 一般向けライセンス		WEBGUARDIAN アカデミック・ガバメント向けライセンス	
	新規価格（契約期間1年）	更新価格（契約期間1年）	新規価格（契約期間1年）	更新価格（契約期間1年）
25	¥150,000	¥75,000	¥105,000	¥52,500
50	¥250,000	¥125,000	¥175,000	¥87,500
75	¥337,500	¥168,750	¥236,250	¥118,125
100	¥400,000	¥200,000	¥280,000	¥140,000
200	¥600,000	¥300,000	¥420,000	¥210,000
300	¥750,000	¥375,000	¥525,000	¥262,500
400	¥800,000	¥400,000	¥560,000	¥280,000
500	¥950,000	¥475,000	¥665,000	¥332,500

600	¥1,080,000	¥540,000	¥756,000	¥378,000
700	¥1,120,000	¥560,000	¥784,000	¥392,000
800	¥1,200,000	¥600,000	¥840,000	¥420,000
900	¥1,260,000	¥630,000	¥882,000	¥441,000
1,000	¥1,300,000	¥650,000	¥910,000	¥455,000
1,500	¥1,425,000	¥712,500	¥997,500	¥498,750
2,000	¥1,800,000	¥900,000	¥1,260,000	¥630,000
2,500	¥2,125,000	¥1,062,500	¥1,487,500	¥743,750

※ 表示価格に消費税は含まれていません。
※ ライセンスは、WEBGUARDIANを経由してインターネット接続するクライアントPCの総台数分必要です。
※ 上記料金には、契約期間中のバージョンアップ媒体送付、電話・FAX・E-mailによるユーザーサポート、URLデータベース更新の権利が含まれます。
※ 2501ユーザー以上の価格は、個別見積もりになります。

【GUARDIANWALL】

ユーザー数	GUARDIANWALL Standardモデル		GUARDIANWALL Advancedモデル	
	標準価格	年間保守料金	標準価格	年間保守料金
50	¥960,000	¥144,000	¥1,300,000	¥180,000
100	¥1,100,000	¥165,000	¥1,500,000	¥210,000
250	¥1,400,000	¥210,000	¥1,800,000	¥255,000
500	¥1,600,000	¥240,000	¥2,100,000	¥300,000
1000	¥1,950,000	¥292,500	¥2,600,000	¥375,000
1500	¥2,340,000	¥351,000	¥3,100,000	¥450,000
2000	¥2,730,000	¥409,500	¥3,600,000	¥525,000
2500	¥3,120,000	¥468,000	¥4,100,000	¥600,000
無制限	¥3,900,000	¥585,000	¥5,100,000	¥750,000

※ 表示価格に消費税は含まれていません。
※ 上記年間保守料金に含まれる内容は、保守期間中のバージョンアップ媒体送付、並びに電話・FAX・E-mailによるユーザーサポートを提供するものです。保守は、初年度から必須です。

■動作環境（WEBGUARDIAN / GUARDIANWALL 共通）

OS	Solaris版	Solaris 8/9/10（インテル版Solarisは対象外です。） ※パッチ条件 Solaris 8 : 108434, 111302, 109147, 111721 Solaris 9 : 111711, 111722
	Linux版	Red Hat Enterprise Linux AS/ES Ver 4 Red Hat Enterprise Linux Ver 5 （Red Hat Enterprise Linux 5 Desktopは対象外です。） ※予め以下のパッケージのインストールが必要です。 ed、tcl、compat-db、compat-libstdc++、mt-st、libstdc++-devel （libstdc++-devel は、WEBGUARDIAN にのみ必要。）
コンピュータ（本体）	Solaris版	SUN SPARCサーバーおよび互換機
	Linux版	Red Hat Enterprise Linuxが動作するIA-32（Pentium以上） インテル 64プロセッサ（Itanium 2は非対応）
ハードディスク(最小)		WEBGUARDIANをインストールする領域として、 /optに370MB以上、/varに100MB以上の空き容量が必要です。
メモリ(最小)		1GB

※ WEBGUARDIAN、GUARDIANWALLは、キヤノンITソリューションズ株式会社の登録商標です。

※ Solarisは、米国Sun Microsystems, Incの登録商標です。
※ Linuxは、Linus Torvalds氏の登録商標です。
※ SPARCは、米国SPARC International Inc.の登録商標です。
※ インテル Pentiumは、米国Intel Corporationの登録商標です。
※ Red Hatは、米国Red Hat Inc.の登録商標です。
※ その他の製品名および社名などは各社の商標または登録商標です。仕様は予告なく変更する場合があります。

■「WEBGUARDIAN」新バージョンの主なポイント

・送信データのコンテンツフィルタリング機能を強化（ファイルタイプ判別機能 / 個人情報検査機能）
【ファイルタイプ判定機能】
従来の「WEBGUARDIAN」では、送信データファイルのContent-Typeやファイル名・拡張子を、HTTPヘッダーで判定していました。新バージョンでは、このMIMEタイプ検査に加え、ファイルの内容から実質のファイルタイプを判定する機能を追加しました。この機能により、拡張子が偽装されたファイルの送信をブロックすることが可能です。また、拡張子の偽装は情報漏えいの危険性が高いため、送信しようとした時に管理者にアラートメールにて通知するといった運用も可能です。

【個人情報検査機能】
送信データファイルに含まれる個人を特定するキーワード（氏名、住所、電話番号など）をパターンマッチで検出し、スコア付けする機能を追加しました。このスコア値をフィルタリング条件に設定することで、個人情報の流出を抑止することができます。

・独自プロキシー認証機能を追加
LDAPサーバーとの連携によるプロキシー認証のほかに、「WEBGUARDIAN」独自のプロキシー認証機能を追加しました。これにより、社内にLDAPサーバーが無い環境においても、プロキシー認証機能を使用することができます。

・Windows Live Hotmailの閲覧対応
Windows Live Hotmail（MSN Hotmailの新サービス）で送信されたWEBメールの情報が閲覧可能になりました。

・ライセンス価格体系を変更
「WEBGUARDIAN」のライセンス体系を年間サブスクリプション方式に変更し、初年度費用を引き下げる価格改定を行います。また、小規模のお客さまにも導入しやすいように、最小ユーザー数を50から25に引き下げます。

・アカデミック・ガバメント向けライセンスの追加
既存の一般企業さま向け「WEBGUARDIAN 一般向けライセンス」の他に、教育機関や官公庁・自治体を対象とする「WEBGUARDIAN アカデミック・ガバメント向けライセンス」をラインアップに追加します。

・ライセンスのカウントからサーバー台数を廃止
以前の「WEBGUARDIAN」のライセンス費用は、ユーザー数の他にサーバー台数にも依存して増加していました。このたびのライセンス体系変更により、ライセンス費用はユーザー数のみに依存しサーバー台数が何台でも同じ価格となります。

© Canon IT Solutions Inc.